

運転免許返納に対する高齢者意識の分析

山岡 俊一¹・野田 宏治²・荻野 弘³・大森 峰輝⁴

¹正会員 呉工業高等専門学校准教授 環境都市工学分野（〒737-8506 広島県呉市阿賀南2-2-11）
E-mail:yamaoka@kure-nct.ac.jp

²正会員 豊田工業高等専門学校教授 環境都市工学科（〒471-8525愛知県豊田市栄生町2-1）
E-mail:noda@toyota-ct.ac.jp

³正会員 株式会社キクテック（〒457-0836 愛知県名古屋市中区加福本通1丁目26番地）
E-mail:h_ogino@kictec.co.jp

⁴正会員 豊田工業高等専門学校教授 建築学科（〒471-8525愛知県豊田市栄生町2-1）

高齢運転者による交通事故を防止する目的で1998年に運転免許返納制度が始まった。超高齢社会と言われる今、高齢運転者による原付以上運転者（第1当事者）による交通事故件数は増加している。この問題に対して各自治体は、交通機関の運賃割引や協賛店による割引等のサービスなど様々な免許証自主返納支援を行っている。しかし、運転免許返納者は65歳以上の運転免許保有者の1%にも達していない。そのため、様々な視点から運転免許返納制度について再検討する必要がある。

そこで本研究では、愛知県豊田市の高齢者を対象にアンケート調査を実施し、得られたデータを集計分析することで、運転免許返納に対する意識を回答者属性や生活環境等の要因と関連付けて明らかにすることを目的とする。

Key Words : the system of relinquishment of the driver's license, elderly drivers, questionnaire survey

1. はじめに

我が国の運転免許保有者は毎年増加しており、平成25年の運転免許保有者は81,860,012人¹⁾に達している。少子高齢化が叫ばれる今、運転免許保有者全体を占める高齢運転者の割合も増加の一途をたどる。高齢者は、加齢に伴う身体機能や判断力等の低下によって運転能力も衰える。そのため、高齢運転者による交通事故の増加が問題となっている。

高齢運転者を原因とする交通事故を防止する目的で平成10年から運転免許返納制度が実施されている。各地方行政は交通機関の運賃割引や協賛店による割引等の他に、平成14年からは返納後の身分証として使用できる運転経歴証明書が発行される等、様々な運転免許自主返納支援を行っている。しかし、現在の環境では車に頼らない生活を送ることは難しいことも事実であり、65歳以上の運転免許返納者は65歳以上の運転免許保有者の0.9%¹⁾であり、まだまだ少ないのが現状である。

そのため、運転免許返納制度について様々な視点から再検討する必要がある。既存の運転免許返納に関する研究は橋本らの研究²⁾等が見られ、居住地特性や交通行動の変化と運転免許返納の特性を明らかにしている。しか

し、高齢者の各種意識や本制度を活用できない理由等はまだ不明な点が多い。

そこで本研究では、愛知県豊田市の高齢者を対象としたアンケート調査を行うことにより高齢者の運転免許返納に対する意識を回答者属性や生活環境等の要因と関連付けて明らかにすることを目的とする。

2. 運転免許返納制度と現状¹⁾

(1) 運転免許返納制度と運転経歴証明書

運転免許返納制度とは、運転の継続の意思のない人が自主的に運転免許取り消しの申請をすることであり、高齢運転者の引き起こす交通事故を防止する目的で、道路交通法の改正により平成10年4月から導入された。

運転経歴証明書とは、本人確認書類として利用できる身分証明書であり、平成14年6月から運転免許返納制度の促進策として発行が始まった。しかし、平成15年に施行された本人確認法により運転経歴証明書は発行から6ヵ月しか本人確認書類として認められなかった。その後、身分証明書として活用しにくく、改善を望む声が相次いだため、平成24年4月より制度が改正され、本人確認書

類としての有効期限がなくなった。また、これまでできなかった再交付も可能となった。

(2) 高齢運転者による交通事故

図-1に平成15年～25年の高齢運転者とそれ以外の運転者が第一当事者となった交通事故件数の推移を示す。交通事故総件数は平成15年には948,281件であったのに対して、平成25年には629,021件と全体の交通事故の件数は減少傾向にある。しかし、高齢運転者による交通事故件数は平成15年の89,132件に対して、平成25年は104,243件と増加している。今後も、高齢運転者が増加していくことと合わせて、高齢運転者が引き起こす交通事故は増加していくと考えられる。

(3) 運転免許保有者数の推移

図-2に平成15年～25年の年度別の運転免許保有者数と65歳以上の運転免許保有者数の推移を示す。平成15年には約77,467,729人だった運転免許保有者数は、平成25年には81,860,012人まで増加している。またそれに伴い、65歳以上の運転免許保有者数も平成15年の8,900,622人が平成25年には15,342,263人と約1.7倍に増えている。

5歳階級別人口で見ると、25～64歳の運転免許保有率は80%を超えている。今後は、運転免許保有率の高い年代が高齢者になるため、高齢運転者がますます増加していくと推定できる。

(4) 運転免許返納者数と運転経歴証明書交付者数

運転免許返納者数は平成21年頃から急激に増加している。この要因としては、この頃から全国各地で運転免許返納者に対する支援対策が取り込まれ始めたことや平成21年から始まった講習予備検査（75歳以上を対象とした認知機能の検査）が影響していると考えられる。

運転経歴証明書交付者数は平成24年から急激に増加している。この要因としては、平成24年4月から法改正により有効期限がなくなり、金融機関の窓口で本人確認書類としても使えるようになったことが影響していると考えられる。

(5) 調査対象地域の運転免許返納者への支援の取り組み状況

愛知県では運転経歴証明書を提示することで、約30の自治体でコミュニティバスの運賃割引や住民基本台帳カードの発行手数料が無料になるほか、民間の薬局やスーパー銭湯、美容院などの863店でも証明書を提示すると割引などのサービスを受けることができる。

豊田市では運転免許証を自主返納された65歳以上の市民を対象に、顔写真付住民基本台帳カードの無料交付（交付手数料500円の免除）、交通安全グッズの贈呈

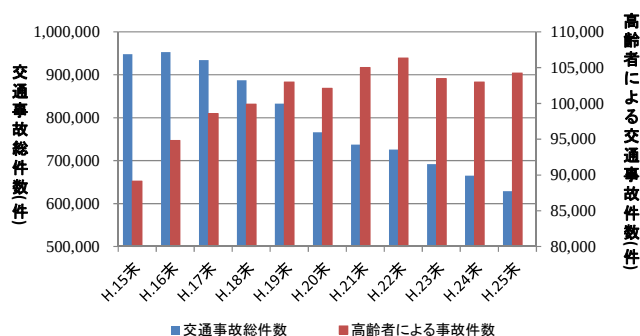


図-1 交通事故総件数と高齢者による交通事故件数の推移

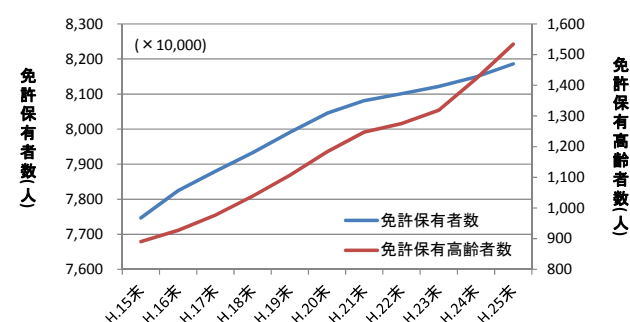


図-2 運転免許保有者数と65歳以上の運転免許保有者数の推移

(LED懐中電灯、反射材付買物袋)を行っている。

3. 運転免許返納に関するアンケート調査

(1) 運転免許返納に関するアンケート調査

(a) 調査概要

アンケート調査の概要を表-1に示す。アンケート調査票の配布対象は、豊田市の老人クラブに所属している高齢者とした。

対象地区の選出にあたっては公共交通満足度、バスの本数、高齢者による交通事故率を考慮し、抽出した。公共交通満足度は豊田市民意識調査（第19回）³⁾より公共交通のネットワークの形成の満足度について上位7地区を「満足度が高い地区」、下位7地区を「満足度が低い地区」、それ以外を満足度が「中程度の地区」とした。バスの本数は地区内のバス停の平日の運行本数⁴⁾が0～11本を「バスの運行本数が少ない地区」、21本以上を「バスの運行本数が多い地区」とした。高齢者の交通事故率は地区別の60歳以上の事故（第一）と60歳以上の人口の割合⁵⁾から上位7地区を「事故率が大きい地区」、下位7地区を「事故率が小さい地区」、それ以外を「事故率が中程度の地区」とした。各地区の公共交通満足度、バスの本数、高齢者の交通事故率の評価を表-2に示す。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	愛知県豊田市の老人クラブに所属する高齢者
調査地区	稲武 崇化館 梅坪台 竜神 末野原 藤岡 下山
調査地区抽出方法	公共交通満足度・バスの本数・高齢者による事故率を考慮し抽出
調査クラブ数	24クラブ
調査クラブ	稲橋清風会 小田木百年クラブ 一区桜寿会 西区高砂会 神明神栄会 三寿会 東区竹友会 中区寿会 西区明栄クラブ 日の出会 平芝前区旭会 陣寿会 栄町寿会 西山長寿会 伊保原さくら会 京町福寿会 住吉あけぼの会 宝西親和会 鶯鴨中部学園 渡刈寿会 藤睦会 若葉会 和合楽生会 三巴豊寿会
調査クラブ抽出方法	男性の多い順に2クラブ抽出 (崇化館のみ全クラブ)
調査時期	平成25年12月11日～平成25年12月19日
配布方法	各老人クラブ会長から会員へ配布
配布数	2769部
回収方法	郵送
回収数	1157部 (平成26年1月15日迄)
回収率	41.8%

表-2 地区の公共交通満足度、バスの本数、高齢者の事故率の評価

区名	公共交通満足度	バスの本数	高齢者による事故率
稲武	高	少	大
崇化館	中	多	大
梅坪台	高	多	大
竜神	中	少	中
末野原	低	少	中
藤岡	低	多	小
下山	高	少	小

対象クラブの抽出にあたっては各地区の男性の多い順に2クラブずつ（崇化館のみ全クラブ）抽出した。アンケート調査票の回収率は41.6%と良い結果が得られた。しかし、クラブにより大きく回収率が異なる結果になった。

(2) アンケート調査の内容

アンケート調査は、高齢者の運転免許返納に対する意識を回答者属性や生活環境等の要因と関連付けて明らかにするため、以下の項目について質問を行った。

- ・回答者属性(性別、年齢、職業等)
- ・公共交通機関について(バス停・鉄道駅の距離、運行本数、利用状況)
- ・運転状況について(外出頻度、運転歴、事故経験)
- ・運転免許返納制度について(運転免許返納制度・運転免許返納の仕方・運転経歴証明書の認知度)
- ・運転免許返納者について(運転免許返納理由・運転免許返納後不便なこと)

表-3 回答者属性

項目	回答	割合(%)
性別	男性	58.9
	女性	38.3
年齢	60歳未満	3.4
	60代	20.9
	70代	47.4
	80代	16.5
	90歳以上	2.0
職業	定年退職後会社員	4.6
	定年退職後無職	37.8
	専業主婦(夫)	17.8
	会社員	2.3
	自営業	8.1
	パート・アルバイト	6.4
	農林漁業	8.0
	その他	6.4
運転免許証	保有している	87.0
	保有していない	13.0

表-4 公共交通機関について

	項目	回答	割合(%)
最寄りのバス停	自宅からの距離	100m未満	16.5
		100～299m	36.1
		300～499m	12.7
		500～999m	19.0
		1000m以上	15.7
	運行本数	一週間に数日運行	5.1
		数時間に1本程度	21.7
		1時間に1本程度	47.5
		1時間に2本程度	12.3
		1時間に3本以上	13.5
	利用状況	ほぼ毎日	0.8
		週に数日	2.9
		月に数日	5.2
		利用しない	91.1
最寄り駅	自宅からの距離	500m未満	18.0
		500～999m	25.1
		1000～1499m	17.6
		1500m以上	39.3
	運行本数	1日数本以下	3.3
		数時間に1本	1.5
		1時間に1本	9.0
		1時間に2本以上	86.2
	利用状況	ほぼ毎日	1.2
		週に数日	3.5
		月に数日	16.9
		利用しない	78.5
	公共交通機関の満足度	満足	60.8
		どちらともいえない	18.7
		満足でない	20.5

(3) 回答者属性

表-3に回答者の性別・年齢・職業・運転免許証の保有状況の構成を示す。回答者の男女比は、男性が58.9%、女性が38.3%となり、男性が多いという結果になった。回答者の年齢区分割合は、70代を中心としており、60～80代が約85%を占める結果となった。回答者の職業で最も多かった回答は「定年退職後無職」の37.8%、その次に多かった回答は「専業主婦(夫)」の17.8%となった。

運転免許証の保有状況は、「保有している」が87.0%

と、回答者の大半が運転免許証を保有していることが分かる。

(4) 回答者の生活環境（公共交通機関）

表-4に最寄りのバス停・鉄道駅までの距離、運行本数、利用状況の構成を示す。

最寄りのバス停までの距離は、約53%が300mまでの距離にあると回答している。また、最寄りの鉄道駅までの距離は、最も多かった回答は「1500m以上」の39.3%である。

運行本数は、バスで最も多かった回答は「1時間に1本」の47.5%で、鉄道では「1時間に2本以上」の86.2%という結果になった。

利用状況はバスと鉄道ともに、「利用しない」の回答が多く、それぞれ91.1%、78.5%となった。

しかし、公共交通機関の満足度では60.8%が「満足」と回答している。

(5) 自動車の運転状況

表-5に運転免許保有者の自動車の運転状況について示す。回答者自身による運転の外出頻度は、「ほぼ毎日」と回答した人が最も多く、77.5%という結果になった。運転歴は、50年以上と回答した人が多く、46.5%であった。事故経験では、75%の回答者が「事故経験なし」という結果になった。

(6) 運転免許返納制度に関する知識

表-6に運転免許返納制度の認知度、運転免許返納の仕方の認知度、運転経歴証明書の交付の認知度の構成を示す。

運転免許返納制度の認知度は、「なんとなく知っている」の回答が多く52.3%であった。「詳しく知っている」「聞いたことはある」を合わせると約94%と、多くの回答者が運転免許返納制度を知っているという結果になった。しかし、運転免許返納の仕方については、「知らない」と回答した人が41.0%であった。

また、運転免許証を返納した際に身分証明書として使用できる運転経歴証明書は、65.9%が「知らない」と回答している。

運転免許返納制度の存在自体は知っていても、返納の仕方や運転経歴証明書については知らない人が多いため、知ってもらうことが課題であると考えられる。

4. 運転免許返納に対する高齢者の意識

(1) 高齢運転者の運転免許返納意識

表-7に高齢運転者の運転免許返納意識を示す。「近

表-5 回答者の自動車運転状況

項目	回答	割合(%)
自身の運転による外出	ほぼ毎日	77.5
	週に数日	13.2
	月に数日	1.9
	利用しない	7.4
運転歴	10年未満	0.2
	10～19年	0.9
	20～29年	2.8
	30～39年	10.2
	40～49年	39.4
	50年以上	46.5
事故経験	事故経験なし	75
	人身事故	2.8
	物損事故	11.9
	自損事故	10.3

表-6 運転免許返納制度に対する知識

項目	回答	割合(%)
認知	詳しく知っている	17.3
	なんとなく知っている	52.3
	聞いたことはある	24.0
	知らない	6.4
仕方	詳しく知っている	10.9
	なんとなく知っている	46.6
	知らない	41.0
	すでに返納した	1.5
運転経歴証明書	知っている	33.4
	知らない	65.9
	すでに発行してもらった	0.7

表-7 高齢運転者の運転免許返納意識

免許返納意識	割合(%)
近い将来返納したい	10.0
返納したいが、現在の環境では難しい	17.6
いつかは返納したいが、今は返納する気がない	63.7
返納する気は全くない	8.7

い将来返納したい」と回答した人は 10.0%、「返納したいが、現在の生活環境では免許の返納は難しい」と回答した人は 17.6%、「いつかは返納したいが、今のところ、免許を返納する気はない」と回答した人は 63.7%、「返納する気は全くない」と回答した人は 8.7%という結果になった。「返納する気は全くない」と回答した人は 1割未満であり、多くの人が将来運転免許証を返納したいと考えていることが分かった。しかし、「近い将来返納したい」と回答した人も 1割であるため、自動車の運転が高齢者にとって身近で欠かせないものであると考えられる。

(2) 最寄りのバス停・鉄道駅までの距離と運転免許返納意識

図-3 に最寄りのバス停・鉄道駅までの距離と運転免許返納意識の関係を示す。

バス停までの距離では「300～499m」と回答した人の

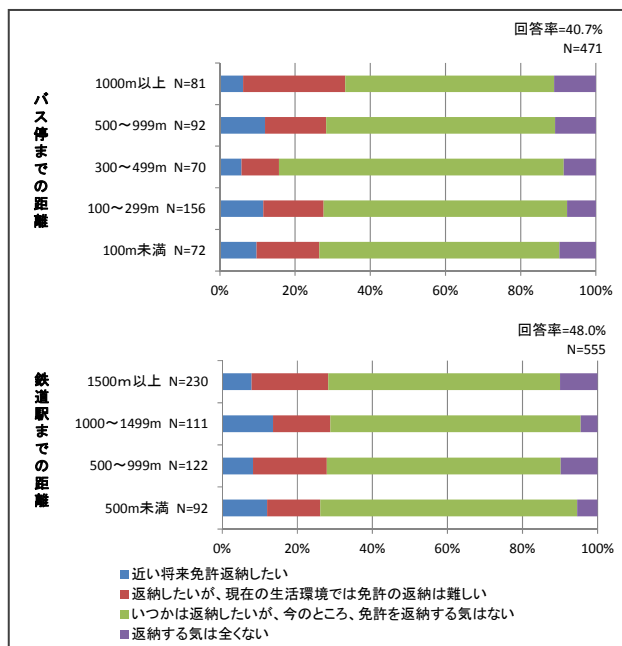


図-3 最寄りバス停・鉄道駅までの距離と運転免許返納意識
高齢運転者の運転免許返納意識

返納意識が最も低く、「いつかは返納したいが、今のところ、免許を返納する気はない」「返納する気は全くない」と回答した人は約 84%となった。また、鉄道駅までの距離では距離によらず運転免許返納意識はあまり変わらないことが分かる。

(3) バス・鉄道の運行本数と運転免許返納意識

図-4 に最寄りのバス停・鉄道駅の運行本数と運転免許返納の関係を示す。バスの運行本数は「一週間に数日運行」と回答した人の運転免許返納意識が最も低く、「いつかは返納したいが、今のところ、免許を返納する気はない」「返納する気は全くない」を合わせると約 84%であった。また、電車の運行本数では「1 時間に 2 本以上」と回答した人の満足度が最も高く、「近い将来返納したい」「返納したいが、現在の生活環境では免許の返納は難しい」と回答した人は約 67%であった。

(4) 公共交通機関の満足度と運転免許返納意識

図-5 に公共交通機関の満足度と運転免許返納意識の関係を示す。公共交通機関の満足度に関わらず、どの回答においても運転免許返納の意識は変わらない。これは、回答者の移動手段として公共交通機関が利用されていないため、運転免許返納の意識に影響を与えないからだと考えられる。

(5) 運転歴と運転免許返納意識

図-6 に運転歴と運転免許返納意識の関係を示す。運転歴が 20 年以上では返納意識はあまり変わらず、運転歴は運転免許返納意識に影響しないと考えられる。

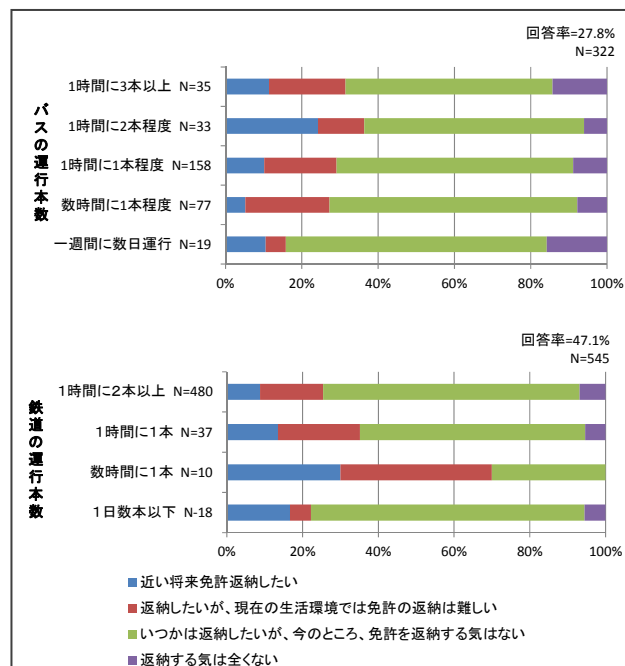


図-4 バス・鉄道の運行本数と運転免許返納意識

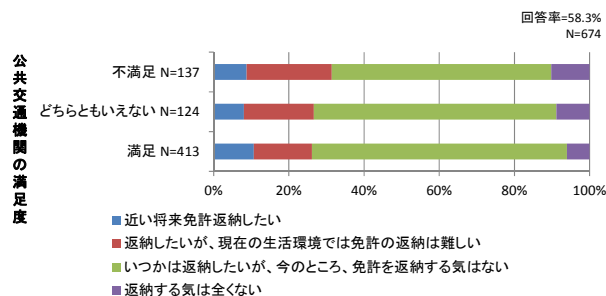


図-5 公共交通機関の満足度と運転免許返納意識

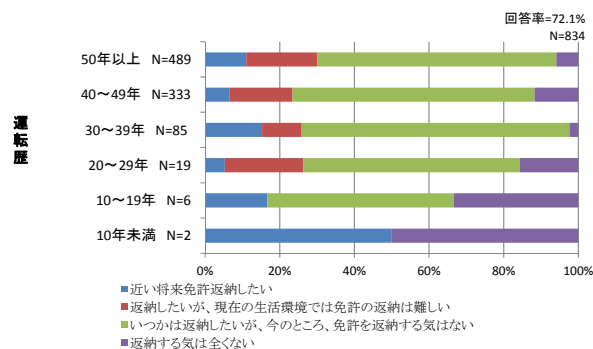


図-6 運転歴と運転免許返納意識

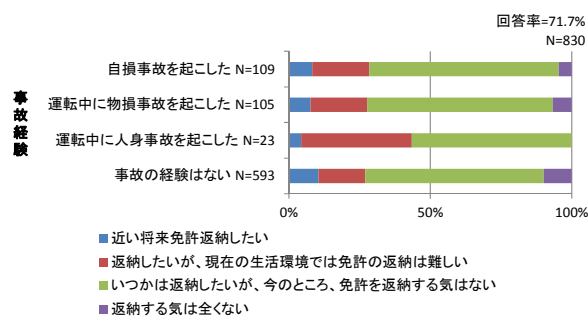


図-7 交通事故経験と運転免許返納意識

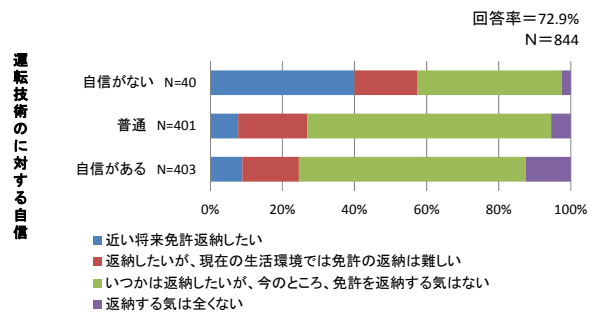


図-8 運転技術の自信度と運転免許返納意識

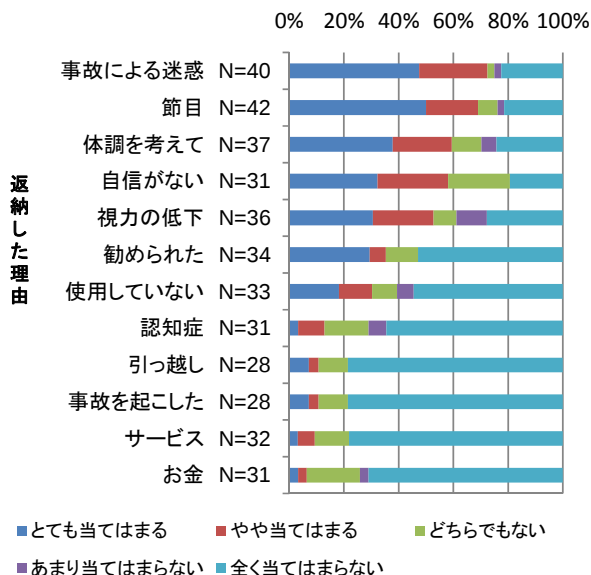


図-9 運転免許返納者の返納理由

(6) 過去の交通事故経験と運転免許返納意識

図-7 に 3 年以内に起こした交通事故の有無と運転免許返納意識の関係を示す。「自損事故を起こした」「運転中に物損事故を起こした」「事故の経験はない」と回答した人の運転免許返納意識の違いはあまり見られない。「運転中に人身事故を起こした」と回答した人で「返納する気が全くない」と回答した人はいない。人身事故によって自身の運転が危険と感じたからだと考えられる。

(7) 運転技術に対する自信と運転免許返納意識

図-8 に運転技術に対する自信と運転免許返納意識の関係を示す。「自信がある」と回答した人で「近い将来返納したい」「返納したいが、現在の生活環境では免許の返納は難しい」と回答した人は約 25%で、「自信がない」と回答した人では約 58%と、運転技術に自信がない人ほど運転免許返納の意識が高くなることが分かった。しかし、運転技術に自信がないと回答した人の約 4 割は運転免許返納意識がなく、こういった人のためにも様々なサービスや支援等を考えていく必要がある。

(8) 運転免許返納者の返納理由

図-9 に運転免許返納者の返納理由の構成を示す。上位 3 項目は「事故をして家族や他人に迷惑をかけたくない」

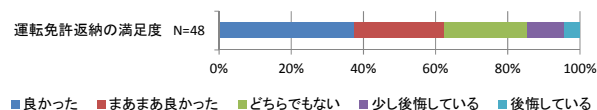


図-10 運転免許返納の満足度

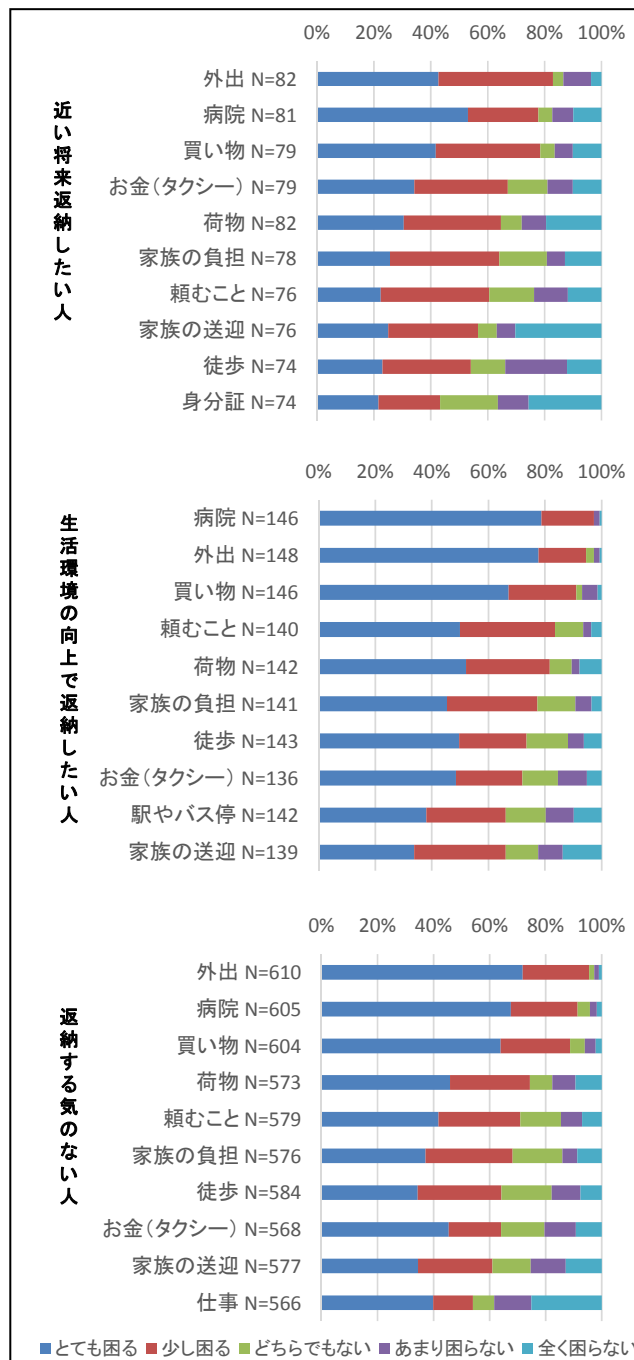


図-11 返納意識別の返納後困ること

ため」「免許更新や年齢など、節目の年を迎えたため」「けがや病気など体調を考えたため」であった。

(9) 運転免許返納の満足度

図-10に運転免許証を返納した人の満足度を示す。約6割が運転免許証を返納して良かったと回答している。

(10) 運転免許返納意識別の返納後困ること

図-11に運転免許返納意識別の返納後に困ることの上位10項目を示す。運転免許返納意識に関係なく、「思い通りに外出できないこと」、「病院に行けないこと」、「買い物に行けないこと」が困る人が多いと考えられる。生活環境の向上で返納したい人は返納する気のない人より「思い通りに外出できないこと」以外、困ると回答した人の割合が多い。特に、「駅やバス停まで遠いこと」に約66%の人が困ると答えている。このことから、運転免許返納制度の利用増進には病院や買い物の手段の確保だけでなく、公共交通機関の充実も重要となる。

(11) 運転免許返納者の返納後困っていること

図-12に運転免許返納者の返納後に困っていることの構成を示している。60%の人が「車・バイクを運転できないので、自由に外出できず困る」に当てはまると回答した。また、40%以上の人が当てはまると回答した項目は、「雨、暑い日、寒い日など天候・季節による負担が増えた」「荷物を運ぶ、駅やバス停まで歩くなど体力的につらい」「相手に迷惑をかけていると思うと、送迎やお使いを頼みづらい」「あまり外出しなくなった」である。以上のことから運転免許証を返納して困ったことは、自由に外出できないこと、自身や家族等に負担になること、そのため外出しなくなったことであると考えられる。

(12) 運転免許保有者と返納者の比較

図-11と図-12から運転免許保有者と運転免許返納者の返納後に困ることを比較すると、「自由に外出できないこと」が共通して困と感じている人が多いことが分かった。また、運転免許返納者の特徴として、「あまり外出しなくなったこと」と感じている人が多いことから、自身の運転以外の移動手段の確保が重要だと考えられる。

5. まとめ

本研究で得られた知見を以下に列挙する。

- ・豊田市の高齢者の運転免許返納制度の活用についての意識は、近い将来返納したい人は10%、返納したいが、現在の生活環境では免許の返納は難しい人は18%、いつかは返納したいが、今のところ免許を返納する気はない人は64%、返納する気は全くない人は9%である。
- ・運転免許返納制度は90%以上の人が存在を知っているが、運転経歴証明書が交付されることを知っている人は30%であり、運転免許返納制度の内容についての認知度は低い。

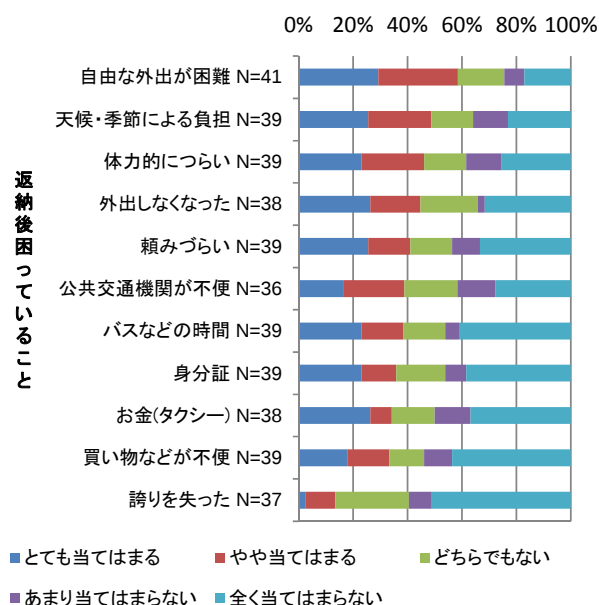


図-12 運転免許返納者の返納後困っていること

- ・運転免許返納意識は、バス停や鉄道駅までの距離には影響しない。また、運行本数は多くても運転免許返納意識は低い。
- ・運転免許返納意識は公共交通機関の満足度で変わらない。
- ・運転技術に自信がない人ほど運転免許返納意識が高い。
- ・返納意識に関係なく、運転免許を返納した際に困ることは思い通りに外出できないこと、病院、買い物に行けないことである。
- ・近い将来返納したい人はタクシーにお金がかかること、生活環境の向上で返納したい人は送迎などを誰かに頼まなければいけないこと、返納する気のない人は荷物を運ぶことが困ると考えている。

今後は、運転免許返納制度単独の問題として捉えるのではなく、地域における高齢者のモビリティおよびそれに対する共助のあり方等広い視点で検討していく必要がある。

参考文献

- 1) 警察庁「運転免許統計」
<https://www.npa.go.jp/toukei/menkyo/index.htm> (アクセス日：2014/10/6)
- 2) 橋本成仁，山本和生：免許返納者の生活及び意識と居住地域の関連性に関する研究，土木学会論文集 D3 (土木計画学)，Vol.68, No.5, pp.709-717, 2012.
- 3) 豊田市企画課：豊田市市民意識調査（第19回），2011.
- 4) 豊田市交通政策課：豊田市バスガイドブック Vol1, 2013.
- 5) 愛知県警察：交通事故データ，2012

(2015. ? 受付)

AN ANALYSIS OF ELDERLY'S ATTITUDE TOWARD RELINQUISHMENT OF DRIVER'S LICENSE

Shunichi YAMAOKA, Koji NODA, Hiroshi OGINO and Mineteru OMORI

In 1998, the system of relinquishment of the driver's license has been established in order to reduce the traffic accidents involving elderly drivers. However, the proportion of people relinquished a driver's license in the elderly of 65 aged or over who have a driver's license was 0.9% at March 31, 2013. Therefore, the system of relinquishment of the driver's license needs to be re-evaluated from various viewpoints. The purpose of this study is to clarify the relationship between the attitude of the elderly for the system of relinquishment of the driver's license, family structure, the needs of the movement for work, and the characteristic of daily living area such as traffic convenience. Data used in this study was obtained by questionnaire survey was conducted for the elderly who live in Toyota City, Aichi in 2014. The following were the main findings: (a) the proportion of elderly that showed the intention to relinquish a driver's license was only 10%. (b) the factors that affect elderly's intention to relinquish a driver's license were confidence of their driving skill and the distance from home to the closest railway station.